

GJS のキャッシュフローについて

5月29日に行われた審議会主催の父母説明会にて、父母側より、審議会のホームページで、審議会の財務表が参照できるようにしてほしいという要望がありました。これに対して坂本審議会会長が「早急に(公式ホームページに)載せます」というご回答をくださったのは皆様ご存知のことと思います。その後の詳しい成り行きについては、PTAのホームページ SaveOurJapaneseSchool.org のなかの「審議会 HP における財務表開示状況」をご覧くださいとしまして、7月21日になってようやく、私の手元に審議会より過去5年分のKPMG(外部監査人)による監査報告書が送られてきました。審議会HPへの掲載はまだなされていませんが、頂いたこの監査報告書を元に、CPA(米国公認会計士)の資格をお持ちの会員の方をお願いして、GJS単体のキャッシュフローを計算していただきました。

ご存知のとおり、今回のGJS校舎売却計画の理由として審議会があげる最大の拠り所は、GJS単体の大きな赤字により審議会全体が赤字になっている、というものでした。すでに6月15日にお配りしたPTA資料の中で、GJS単体は赤字ではない、ということを示しましたが、学校経営の健全性を証明するにはこれだけでは不十分です。

実は、会社や学校などの組織を永続的に運営していく上での財務内容の健全性を分析する際は貸借対照表及び損益計算書のみならず、現金収支を裏付けるキャッシュフロー計算書を分析する必要があります。このキャッシュフロー計算書は文字通り現金の流れを把握する際に必要であり、経営の健全性を判断する重要なバロメーターのひとつです。例えば損益計算書上黒字であってもキャッシュフロー計算書の純現金が大幅に減少(すなわち赤字)していれば倒産することがありますし、逆に損益計算書上赤字であってもキャッシュフロー計算書の純現金が増加(すなわち黒字)していれば組織は継続して運営できる、ということがいえます。

具体的には会員のCPAのボランティアのお話は、以下のようなものでした：

1. 2001年は\$156,399の純現金増加。2002年は\$130,519の純現金減少。
2001年と2002年の現金増減の合計は\$25,880の純現金増加である。

2. 2003年は\$9,100の純現金減少。

3. 2004年は\$15,461の純現金減少。

4. 以上の純現金増減となっているが、過去4年間を合計した純現金増減額は\$1,319の微々たる純現金減少となっており、GJSの手持ち現金残高(2004年3月期は\$171,467)と比較すると学校経営に対しての影響はなく、財務上健全な学校運営が継続して行われていると考えられる。

5. GJSは審議会に対して毎年建物の賃借料\$33万を支払っているが、これはあくまでも将来においての校舎立替のための積立金であり、仮に当積立金の支払いがなければ各年度の現金収支は大幅な純現金増加になる。すなわちたとえ\$33万を支払ってもGJS単体の純現金増減額はほぼプラスマイナスゼロで現状においては手持ちの現金で十分経営がまかなえていると考えられる。

ご参考までに過去4年間のキャッシュフローを開示しました。

Statement of Cashflow

	<u>03/31/04</u>	<u>03/31/03</u>	<u>03/31/02</u>	<u>03/31/01</u>
Net Loss	(330,010)	(303,371)		
Non-cash activities:				
Depreciation	3,315	6,261		
Subsidies receivable	(16,590)	-		
Employee loans	22,252	7,961		
Prepaid expenses	(38,370)	(840)		
Due from other programs	390,000	290,000		
Accounts payable	(49,558)	(1,377)		
Advanced received from students	3,500	-		
Cash inflow from operating activities	(15,461)	(1,366)		
Purchase of fixed assets		(7,734)		
Net cash used	(15,461)	(9,100)	(130,519)	156,399
Beginning cash balance	186,928	196,028	326,547	170,148
Ending cash balance	<u>171,467</u>	<u>186,928</u>	<u>196,028</u>	<u>326,547</u>

* 2001年3月期及び2002年3月期のキャッシュフロー計算書の詳細は2001年3月期の一部数値の整合性について問い合わせが完了していない為簡便的な現金の増減の計算及び表示になっております。

(ご意見, ご提案, ご質問は, PTA 常任委員まで, 随時お寄せ頂くよう, よろしくお願ひいたします.)